

通いたいと思える学校

学校が夢を持てる場所であり、子どもが毎日通いたくなる場所であるべき。

子どもが通う場所なので苦手なところを調整する必要がある。

学びの変化に対応した教室

学びの多様化に対応した学校づくりが望ましい。

少子化ではあるが、学びのスタイルが変わっており、求められる教室数は増えている。さらに、これまでとは異なる教室のあり方が求められている。それを反映したい。

教育の普遍的な部分と流行を整理する必要がある。

「障害」を学ぶ

障害に関する学びには、アクティブラーニングの「活用」を取り入れたい。当事者と触れ合い、学んだことを実践する。

学校において「普通って何だろう？」と考えるきっかけがない。学校でその機会を与えられるとよい。

複合化すれば様々な人と同居することで「活用」の機会も増える。

子どもの生活環境

体育館に空調設置が求められている。暑すぎて校庭に出られない日が多く、体育館で遊べるようになるとうい。

トイレのあり方

トイレがこもりやすい個人的なスペースになりがちである。見通しのよいトイレがよい。

LGBTQの観点も踏まえてトイレを考えないといけない。

防犯の観点からもトイレを考えたい。

施設の可変性

未来を想像して議論する必要がある。ソフト等の変化に耐える施設として可変性や冗長性が大事と思う。

ハードだけで整備後のすべて活動に対応することはできない。可変性のあるハードのあり方を考えたい。

特別教室等の共用化

現実的かつ効果的な複合化・共用化を進めたい。

学校図書館を公共図書館のように充実させる。管理を地域に任せてもいいと思う。

音楽室を地域に開放できれば、楽器類の維持にもつながり、活用も進むと思う。

幹線道路沿いに学校をつくり、保健室を地域医療の場として開放する、緊急利用することができるようにすることもあり得るのではないかな。

バリアフリー対応ながらも車いす利用者に体育館を貸さない例がある。意識の面も検討する必要がある。

複合化のメリット・デメリットがあるので、誰の夢を語るのかが大事である。

プールは維持費がかかるが、活用頻度が低い。地域に開放すればよいのではないかな。

ひのっち、学童での課題は活動場所の確保である。子ども食堂の活動場所を学校施設に求める声も聞く。

複合化の前提としてマネジメントの体制も考える必要がある。

多様な主体がかかわって運営されるようになるとうい。

運営体制

だれもが「お客さん」ではなく、だれもが利益を得られる環境をみんなで作れるとういと思う。

地域・コミュニティへの開放性

学校は地域に開かれるべきと思う。

学校教育と社会教育、地域コミュニティと防災コミュニティがした施設を実現する手段として複合化・多機能化を議論したい。

地域コミュニティが弱体化するなか、学校が中心になるのも方法のひとつと思う。

安全・安心を確保し、子ども、教員、地域住民が触れ合える場をつくりたい。

少子高齢化を踏まえると高齢者が学校施設を積極的に利用することを考える必要がある。

ひのっちが学校の変化の第一歩。教員以外の大人が学校にいたることが受け入れられるようになった。

卒業後に社会教育に移行するとき壁がある。学校で地域の人たちと交流しておく、生涯学習への移行が円滑になるのではないかな。

児童・生徒の安全管理

学校の安全が気になる。校門の鍵をかけることが安全第一ではないかな。

子どもの安全のために死角をなくすることが大事である。子どもの守り方は考えたい。

安全にこだわりすぎると学校が地域コミュニティに壁をつくってしまわないかな。

鍵をかければ安全だが、ほんとうによいのか。地域のコミュニティの核である学校としてソフト面で安全を守ることも検討するべき。

学校と社会教育を別々に考えるのではなく、公共施設をどのようにするのかという観点で広く捉えたい。

収納の必要性

平山小は先進的と言われるが、授業中に遊んでしまう児童もいる。収納がなく、教具等が出しっぱなしであることも集中を妨げる。

教材文具など持ち物が増えている。ロッカーに荷物が入るのが大変で、物がよくなっていく。

机の脇に持ち物が置かれているため、避難路が十分に確保できていない。避難しやすい学校を考えたい。【根津委員⑥】

学校は教育の場でもあり、避難所にもなる。フェーズフリ※一の考え方を取り入れるべき。
※「日常的に使用しているものが非常時にも使える」「非常時に役立つものが日常でも活用される」など、日常と非日常を切り分けたい考え方。

学校で避難所運営にかかわったがマニュアルがなかった。

避難所運営で課題になったことは自児童・生徒のプライバシーである。

避難所としての学校

環境差異の是正

議論を尽くした施設を長期維持するのか、簡易な施設をつくり、適宜更新するのか。

既存の学校施設のストックを現代化することも重要である。

一貫性のある教育環境

少子化が進むなかでは小中一貫校、幼小中一貫校もあり得ると思う。

施設機能の合理化

給食は自校方式だが、調理室が面積やコストに関わるため、経済合理性を鑑みた議論が必要ではないかな。

廃校があった場合の施設活用

統廃合があり得るなら、学校施設でなくなった施設が残る。その施設をどう活かすのか。

社会教育との連携